

経営学部 2020年度報告

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
			評価	評価の理由/課題/根拠データ等	
COVID-19感染リスクを極小化しながら、学びの質を維持し、学修成果の可視化に結びつける。また、登校できない状況が長期化する中で、学生達の状況把握を効率化し適切な指導を模索する。	前期中より再開されていた他学部の対面実習・授業での感染防止対策も見学させていただいた上で、夏期集中講義より対面授業を制限付で再開。そのノウハウも活用して後期の対面授業を実施。キャンパスでの感染事例は出なかった。後期は、英語必修科目やゼミを原則対面とし、11, 12月と首都圏では感染拡大が進む中で、無事に授業を終了。	キャンパスでの感染者が出なかったのはプラス評価。ただし、学生達の状況把握に課題。	学びの質を維持できたかどうかは、成績評価や授業アンケート等をもとに確認が必要。2020年9月実施のアンケートではこれを評価するだけの結果は得られていない。一方、1年生のゼミへの入室内定率が9割を割った。	9月に実施したアンケート(2年生以上261人が回答)では、オンライン授業を対面授業と比較。学習時間が伸びたとする学生56%、不変18%、減少25%。一方で授業への満足度は、低下したと答えた学生が43%。	(1)遠隔授業・指導が継続する中、学生情報共有のニーズは平時に比べても極めて高いと判断され、対応策が必要。米国でSalesforce上で学生の関連情報が統合されている例にヒントを得て、Salesforceのクラウドプラットフォームを多少修正する例を同社による勉強会で提示してもらったが、学生指導・モニタリングのレベルを向上するために具体的検討が必要。(2)教職協働での学生対応上、遠隔での個別対応に限界が生じたことから、2月に入ってゼミ未入室者についての情報をオフラインで統合(教務グループで把握している情報を、教員と共有できるようにオフラインで作業。今後は追加書き込みで共有情報を更新可能。)(3)学修成果の可視化関連では、学修ポートフォリオの活用が必要
入試改革も見据えた学部内教学マネジメント改革の推進。	入試改革については、求める人材像を入試種別毎に策定した(5月)。新たに面接評価表を作成し、評価割合を引き上げた面接(総合型、学校推薦型)での評価に利用した。認証評価を受け、ナンバリングに加えて複数の履修系統図を履修要項に組み入れ、エビデンス整備は進捗(2月)。ただ、カリキュラム改革	十分とはいえないまでも、相応の実績を挙げた。	COVID-19でカリキュラム改変はいったん中止。ただし、ティーチングポートフォリオチャートの作成が始まり、マイクロFDとミドル・マクロFDの有機的接合に道が開かれた。	ティーチングポートフォリオチャートを4人の教員が作成。	カリキュラム改革は来年度以降に先送り(9月)。認証評価を受け、ナンバリングに加えて複数の履修系統図を履修要項に組み入れ、エビデンス整備は進捗(2月)。入試改革については、求める人材像を入試種別毎に策定していた(5月)だが、新たに面接評価表を作成し、評価割合を引き上げた面接(総合型、学校推薦型)での評価に利用した。
学生自らの本格的な振り返りを中核にすえたポートフォリオ開発とそのポータブル化。あわせて学生の成長を後押しする機能を含め、教学IR分析体制の構築・強化。	SalesforceのPlatformは教育機関との間の契約とされ、大幅に費用は低減された。customer community→customer portalに戻す作業対応に追われ、ポートフォリオ開発を進める時間的余裕が失われたのは痛手(契約金額は漏減されたまま)。	ポートフォリオ開発作業は一部に留まった。	ポートフォリオ開発作業は一部に留まった。	ゼミ未入室者を一覧できるページを新設し、35名を載せた(その後、この情報を利用したゼミ入室支援が実施された)	学生の成長を後押しする機能を含めた教学IR分析体制の構築・強化(ただし予算も必要)。

2021年度 経営学部

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
1. カリキュラムの改訂 ①科目群ごとの履修系統図を見直し各科目群の横の関係を明示する。②「経営環境に対応し、企業や組織の中での能力が発揮できる」というディプロマポリシーに沿って、現代社会に応じたカリキュラムに変更 ③カリキュラムポリシーと連動した初年次教育、ゼミナール教育の見直し
2. カリキュラムポリシーで示した成果の把握 ①新たによりテラシー向上を助ける委員会を設置し(英語、数学、視覚化)、2022年度に成果を出せるように準備する。②PROGテストや学修ポートフォリオによる定期的な点検評価を行い学修成果の把握を行う。学修ポートフォリオの書き込み率の目標を昨年度の2倍とする。
3. APIに基づいた入学者選抜の見直しと入学予定者選抜の見直しおよび入学予定者のロイヤルティの向上 ①単願制の学校推薦の質と量の見直し ②一般入試合格者向けの効果的な説明会、教育の実施による歩留まりのUP(2020年度88%⇒91%)③学部の教育の魅力が伝わるオープンキャンパス等の実施
5. 就職率 97%(2019年レベルに戻す)上場上場関連企業への就職率を35%に上げる。就職の率だけでなく中身の検証を行う。
6. 研究活動の活発化。科研費申請、共同研究、学長裁量経費の申請数の向上。紀要の投稿数の増加